

経営を育雛から採卵・直売と多角化し、高付加価値化商品の開発とインターネットなどを活用した販売の取り組み



有限会社 島中育雛場
島中 兼雄（はたなか・かねお）
福岡県嘉穂郡穎田町
法人設立 昭和56年11月

< 推薦理由 >

農産物の輸入自由化や需要の伸び悩みなど厳しい社会・経済環境の中で、経営体みずから工夫し、アイデアを生かしながら、経営の発展的展開を図っていることは、今後の畜産経営に多くの示唆を指し示すことから、優秀事例として推薦する。

当経営体は、強健で良質な雛の育成・供給に心掛けられるとともに、採卵部門では育雛家として他の養鶏農家と競合しない「採採卵」など独自ブランドを確立、さらに、卵を利用した菓子など新たな商品を開発するなど卵や鶏肉の新たなイメージ作りに努め、若い消費者層を中心に卵の消費領域の拡大を図っている。

社会経済がデフレ傾向の厳しい環境の中で、インターネットによる販売網の拡大などで新たな顧客と販路を全国に広げ、順調に売上を伸ばしていて、そのアイデアと経営戦略は、養鶏農家だけでなく地域の商工会等でも模範となっている。

経営の安定と発展を図るため、経営部門の多角化・総合化と商品の高付加価値化に向けた取り組みを地域の農家も含めて一緒に展開し、地域農業の活性化につながっている。

経営部門に、新たに加工部門を開設したことにより、加工部門でのノウハウが加工業者（ケ・キ・レストラン等）向けの卵の開発と販売に役立ち、新たな顧客を呼び起こしている。

養鶏農家の要望により、多くの鶏種を採卵鶏として飼養せざるを得ない不利な経営条件を、逆手にとって特殊卵として商品開発し、商標「げんきタマゴン」や店屋号「卵の庄」として確立し、市場の約1.5倍の卵価で有利販売をされている。

また、卵と菓子のセット販売なども福岡県では初めて商品化され、アイデア商品

として好評で、インターネットの仲間からも高く評価されている。

卵などのイメージ作りにとどまらず、既存の生産直売所のイメージから脱却した店舗作りにより、若い顧客も開拓している。

長年培った育雛のノウハウと採卵まで飼養することにより、各品種にあった多様な飼養技術を確立し、多くの鶏種を飼養しているにも関わらず、成鶏1羽当たり年間鶏卵生産量18.5kg、成鶏1羽当たり年間飼料消費量36.97kg、飼料要求率2.0、所得率23%と県下でもトップクラスの生産技術を維持されている。

専属管理獣医師の管理のもと、農場の衛生環境向上に重点をおいた経営に心掛けられて、いち早く問題のサルモネラ対策等にも着手し、衛生管理の徹底とエサは遺伝子組み換え飼料を含まない、PHFの飼料を使用するなど、消費者の安全・安心・新鮮などを前提とした鶏の健康管理に留意され、生産者の顔の見える経営体を築いている。

鶏舎周辺に四季折々の花を植えるなど、美化に対しても積極的な取り組みがなされている。

常に時代にあった環境対策にも心掛けられ、新たに資源循環型農業の育成にも積極的に取り組み、鶏糞等の資源活用と資源の高度利用を推進されている。

(福岡県審査委員会委員長 小林 清 春)

< 発表事例の内容 >

1 経営管理技術や特色ある取り組み

1) 動機と背景

育雛専門の農家としてスタートした関係で、お得意さんである養鶏農家や関連産業との競合が少ない経営を考えた展開を会社の基本理念として展開している。

生産した商品にさらに付加価値を付け、1次産品だけでなく2次製品も含めた新たな販路領域を確立し、消費拡大を図り、経営の安定と発展を考えている。

需要の伸び悩みや食生活の多様化の中で、「たまご」を本来の安全で美味しい栄養的にも優れた食材として認識してもらうために、独自ブランドの確立とそれを1人でも多くの消費者に認知してもらうためインターネット利用を考えた。

2) 経過(商品・顧客の開発と経営の多角化や生産技術)

(1) 厳しい養鶏経営の中で、他の養鶏農家等との共生・共栄を企業理念とし、強健で均一な雛の育成に努めるとともに他の養鶏農家と競合しない高級イメージの鶏卵の領域を商標「げんきタマゴん」店屋号「卵の庄」として確立した。

色の異なる卵の詰め合わせ「採採卵^{いろいろらん}」等、卵の新たなイメージ作りや、ウコッケイの卵を利用した黄金カステラなど菓子、アイスクリームや新たな鶏卵の加工品等を商品開発し、卵の消費領域の拡大と消費者層を開拓した。

インターネット「楽天市場」に店屋号「卵の庄」を開設し、全国展開を図り、ブランド商品として卵のPRと新たな顧客と販路を確立し、開始2年半にして

北海道稚内市から沖縄県の波照間島まで販売実績を上げ、顧客交流をするに至っている。また、そのノウハウを地域の養鶏農家や他業種の人々に教え、新たな農業の展開に向けた支援も行っている。

- (2) 経営部門の多角化と商品の循環・高付加価値を図り、加工部門や直売所を設けるとともに、ふるさと物産店にも販売コーナーを設け、好評を得るまでに至っている。
- (3) 消費者ニーズの安心と新鮮に答えるため、ワクチン等の衛生管理の徹底とエサは遺伝子組み換え飼料を含まないPHFの飼料を使用するなど、自然と安全を追求している。
- (4) 自社鶏ふんで栽培された米や野菜も受託販売されるなど、地域の農家と一緒にあって地域農業の発展に取り組まれている。
- (5) 各品種を育雛から採卵・販売まで行うことで、鶏種・系統ごとの特性把握とその特性にあった飼養管理のあり方等を実践するとともに農家に助言することで、養鶏農家の経営安定と飼養技術の高位平準化に役だっている。
- (6) 日々の羽数、採卵状況が記帳され、群ごとの産卵把握など経営合理化のための基本管理技術が励行され、高い生産性が保たれている。
- (7) 施設・機械等の保守点検も綿密にかつ的確にされていることから古い施設・機械が今も稼働し、償却費の低減になっている。

3) 支えた外部支援

総合資金等の借入による経営拡大や施設改善にあたっては、県農林事務所、普及センター、畜産会等で経営計画の見直しや経営改善の助言を逐次行い支援している。

また畜産会では、経営診断による改善助言やLIN（畜産情報ネットワーク）のこだわり市場等を通して、当経営への支援や販売紹介を行っている。

2 経営・活動の内容

1) 労働力の構成

(平成13年5月現在)

区分	続柄	年齢	農業従事日数		備考
				うち畜産部門	
構成員 及び 家族	本人	68	260	250	代表取締役
	妻	60	230	200	"
	長女	37	200	180	企画、広報、販売担当
	長女の夫	37	280	280	育雛・採卵の生産管理技術担当
	妻の妹	51	260	250	社員(経理担当)
	弟夫婦	51	260,260	260,100	"(GPセンター、加工担当)
常雇	育雛	10人	260	260	
	採卵	14人	260	260	
	加工	6人	260	-	
臨時雇	のべ人日 14人 × 95日 = 1,330			475	主な作業内容 直売所店員、加工、選卵、飼育等
労働力計	51人		10,820日	8,235日	

2) 収入等の状況

(平成11年11月～平成12年10月)

区分	種類 品目名	作付面積 飼養規模	販売量	販売額・ 収入額	収入 構成比	概ねの 所得率
農業収入	育雛・採卵・加工			489,059千円	97.5%	17.1%
農外収入	米・野菜の委託販売			12,404千円	2.5%	22.9%
合計				501,463千円	100.0%	17.2%

3) 土地所有と利用状況

(単位：a)

区 分		実 面 積		畜産利用地	備 考
			うち借地	面 積	
個 別 利 用 地	耕 地	田	210	80	(個人・米)
		畑	10		
		樹園地			
		計	220	80	
	耕 地 以 外	牧草地			
		野草地			
		直売所	5		4カ所、自販機1カ所
		計	5		
	畜舎・運動場	600	100	362	農場4カ所
	そ の 他	山 林			
		原 野			
計					
共同利用地					

4) 家畜の飼養状況

(1) 採卵部門

(単位：羽)

品 種 区 分	ｲﾝﾌﾞﾗﾝｸﾞ他 5品種(赤)	T X 他 4品種(白)	ｸﾞﾗﾝﾌﾞ他 4品種(ﾋﾞﾝｸﾞ)	他(ﾌﾞﾙｯｸｲ、 ﾌﾞﾙｯｸ)	計 (18品種)
期 首	20,419	12,003	4,985	350	37,757
期 末	27,787	8,191	5,495	480	41,953
平 均	24,103	10,097	5,240	415	39,855

(2) 育雛部門

(単位：羽)

品 種 区 分	ｲﾝﾌﾞﾗﾝｸﾞ他 5品種(赤)	T X 他 5品種(白)	ｸﾞﾗﾝﾌﾞ他 4品種(ﾋﾞﾝｸﾞ)	他(ﾌﾞﾙｯｸｲ、 ﾌﾞﾙｯｸ)	計 (19品種)
期 首	50,181	29,558	12,761	290	92,790
期 末	72,114	30,619	15,948	218	118,899
平 均	61,148	30,089	14,355	254	105,845

5) 施設等の所有・利用状況

(1) 採卵部門

種類	構造 資材 形式能力	棟数 面積数量 台数	取得		所有 区分	備考 (利用状況等)
			年	金額 (円)		
畜舎	成鶏舎 "	軽量鉄骨トナ "	嘉穂1棟 (4号)	S.63.10	3,880,000	法人
			直立4段 開放	S.10.4	27,500,000	"
施設	洗卵選別場 " 電気工事 直売所 自動ドア ケージ設備 自販機用建物	軽量鉄骨トナ "	1棟	S.58.6	2,700,000	法人
			一式	H.8.6	1,030,000	"
			1棟	"	1,514,564	"
			一式	"	454,000	"
			"	H.6.12	15,794,823	"
	木造トナ	1棟	H.10.10	413,550	"	
機械	イグマン イグマンバルコンパ 鶏卵販売機 搬送給餌機 洗卵選別機 パソコン他		6台	H.8.6	2,358,000	法人
			一式	"	742,000	"
			1台	H.10.6	2,029,600	"
			一式	"	3,250,000	"
			"	H.8.6	4,200,000	"
			1台	H.11.5	454,598	"

(2) 育雛部門

種類	構造 資材 形式能力	棟数 面積数量 台数	取得		所有 区分	備考 (利用状況等)
			年	金額 (円)		
畜舎	育雛舎 " "	庄司3棟 嘉穂4棟 穎田4棟	一式	S.56.6	45,605,900	法人
				S.61.10	5,577,499	"
				H.1.1	30,335,159	"
施設	フォーマオートマチックシステム ケージ設備 電気工事 ハイムケージ		一式	H.1.1	25,366,600	法人
			"	H.3.12	12,985,930	"
			一式	"	6,684,729	"
			"	H.6.1	2,459,756	"
機械	自動給餌機 自動計量器 給水機 発酵攪拌機 ステップ台 バルコンパ 搬送給餌機 飼料搬送機		"	S.56.11	7,616,000	法人
			"	"	400,000	"
			"	"	980,000	"
			1台	"	5,706,000	"
			"	H.1.1	551,400	"
			"	H.1.9	700,000	"
			"	H.1.1	2,250,000	"
			一式	H.8.1	463,015	"

(3) 加工部門

種 類	構 造 資 材 形式能力	棟 数 面積数量 台 数	取 得		所 有 区 分	備 考 (利用状況等)
			年	金 額 (円)		
畜 舎					-	
施 設	店舗・厨房	軽量鉄骨ト	1棟	H.10.10	3,339,170	法 人
	アイ販売店舗	"		H.11	1,285,462	" 店舗改造
機 械	業務用オープン		1台	H.10.10	3,669,000	"
	スライ-R-7		"	"	1,350,000	"
	スライ-自動点滴機		"	"	250,000	"
	ミキ-		"	"	528,000	"
	業務用冷蔵庫		"	H.11	577,943	"
	ディスプレイケース		"	"	389,667	"
	アイランドケース		"	"	290,377	"
	パナソニック		"	"	2,300,000	"
	パスタイザ-		"	"	1,500,000	"
	丸善FM1		"	"	270,000	"
	丸善FM1JC4000		"	"	507,500	"
	包装機(真空)		"	"	685,000	"
	冷蔵庫		"	H.10	253,000	"
	冷凍冷蔵庫		"	"	476,191	"

6) 経営の推移

年次	作目構成	羽数	経営および活動の推移
昭和28年			(株)太田種鶏場入社
45年12月			同上退社
46年1月	育 雛		土地80a購入(本場)ビニールハウス育雛、個人経営開始 逐次ビニールハウス増棟
48年	"	常時12,000羽	中雛主体逐次ケージ育雛に改善 出荷羽数ヒナ58,270羽
50年	"	常時20,000羽	大雛主体ケージ飼い採卵鶏開始 " 60,000羽
52年	育雛+採卵	常時30,000羽	" 採卵鶏5,000羽(販売は直売主体) " 96,000羽
53年	"		小竹分場借地(開放鶏舎1.0ha)農地田60a取得 " 154,450羽 総売上額: 1億円突破 採卵鶏 8,000羽
56年11月	"		有限会社設立 庄司分場土地3.0ha購入 総合資金2億7千万円(1期~2期)育雛舎3棟 54,000羽増羽 高床式開放鶏舎増棟9,000羽 鶏ふん処理施設整備
58年	"		GP施設及び機器購入「げんきタマゴ」の名称で販売開始
61年	"		嘉穂分場開設 総合資金追加借入5,760万円 (土地2haプロイラー鶏舎7棟購入)
63年	"		鶏舎整備畜環資金4,500万円借入(ウインドレス鶏舎、育雛舎各1棟整備)
平成3年	"	常時 育雛142,000羽	現在の施設に充実(育雛舎:本場4棟、嘉穂4棟、庄司3棟、 鶏舎:本場6棟、嘉穂3棟、小竹6棟)
6年10月	"	採卵45,000羽	パソコン導入
7年4月	"	"	パソコン通信による販売開始
8年4月	"	"	商標マーク「げんきタマゴン」登録
10年9月	"	"	楽天市場に加入 インターネット販売開始 店屋号「卵の庄」
10年11月	育雛+採卵+加工	"	卵利用の菓子及び鶏肉加工開始 本場直売所等改築
11年7月	"	"	卵を利用したアイスクリーム製造販売開始
13年3月	"	"	鶏ふん処理施設再整備し自動化、資源循環型畜産確立対策 7,495万円(袋詰施設、製品倉庫たて型コンボ導入)

8) 経営の実績・技術等の概要

(1) 経営実績（採卵部門）

期 間	平成11年11月1日～平成12年10月31日		経営実績	畜産会指標
経 営 の 概 要	労働力員	家族（人）（構成員の社員も含む）	2.5	2.5
	数（畜産）	雇用（人）（臨時も含む）	14.5	0.4
	成鶏平均飼養羽数（羽）		39,855	26,300
	年間鶏卵生産量（kg）		737,263.5	463,800
	年間鶏卵出荷量（kg）		737,263.5	463,800
収 入	採卵鶏部門年間総所得（千円）		41,775	10,400
	成鶏100羽当たり年間所得（円）		104,816	39,500
	所得率（％）		23.3	12.4
益 性	成鶏 100羽当たり	部門収入（円）	450,300	337,000
		うち鶏卵販売収入（円）	443,883	318,700
		売上原価（円）	285,384	299,400
		うちもと雑費（円）	(大雑) 45,047	17,600
		うち購入飼料費(円)	121,387	201,500
		うち労働費(円)	62,695	26,200
		うち減価償却費(円)	17,524	34,700
生 産 性	成鶏100羽当たり年間鶏卵生産量（kg）		1,850	1,760
	成鶏100羽1日当たり産卵量（kg）		5.06	4.82
	鶏卵1kg当たり平均販売価格（円）		239.95	181
	成鶏100羽当たり年間飼料消費量（kg）		3,697	4,070
	飼料要求率		2.0	2.28
	育成率（初生雛）（％）		-	-
	育成率（中大雛）（％）		97	98
	成鶏淘汰率（％）		-	81.3
	成鶏への死亡率（％）		5	5.2
	成鶏補充率（％）		100	86.4
	鶏舎1㎡当たり年間鶏卵生産量（kg）		261	-
	鶏舎1㎡当たり成鶏飼養羽数（羽）		14.1	-
	成鶏100羽当たり投下労働時間（時間）		86	22
安 全 性	総借入金残高（期末時）（万円）		6,810	5,500
	成鶏100羽当たり借入金残高（期末時）（円）		170,878	209,000
	成鶏100羽当たり年間借入金償還負担額（円）		20,062	-

経営実績（育雛・加工部門）

期 間		平成11年10月1日～12年10月31日	育雛実績	加工実績
経 営 の 概 要	労働力員 数(畜産)	家族(人)(構成員の社員も含む)	2.5	2
		雇用(人)(臨時も含む)	11	9
	成鶏平均飼養羽数(羽)		105,845	-
	年間育雛出荷羽数(羽)		345,052	-
	年間鶏卵加工仕向量(kg)		-	3,650
年間鶏肉加工仕向量(羽)		-	6,000	
収 入	育雛・加工部門年間総所得(千円)		38,914	2,869
	育雛100羽当たり年間所得(円)		11,326	-
	所得率(%)		13.9	-
益 性	育雛出荷 100羽当たり	部門収入(円)	81,562	-
		うち育雛販売収入(円)	80,385	-
		売上原価(円)	55,783	-
		うちもと雛費(円)	18,212	-
		うち購入飼料費(円)	21,696	-
		うち労働費(円)	5,873	-
		うち減価償却費(円)	1,522	-
生 産 性	育雛100羽当たり平均販売価格(円)		80,385	-
	育雛100羽当たり年間飼料消費量(kg)		6.8	-
	平均育雛日数(日)		125	-
	育成率(初生雛)(%)		-	-
	育成率(中大雛)(%)		97	-
	鶏舎1m ² 当たり育雛飼養羽数(羽)		13.6	-
	育雛100羽当たり投下労働時間(時間)		8	-
	加工部門での生産割合(収入比%)		-	100
	うちお菓子類及びアイスクリーム		-	87.9
	うち鶏肉		-	12.1
安 全 性	総借入金残高(期末時)(万円)		23,217	
	育雛100羽当たり借入金残高(期末時)(円)		67,286	
	育雛100羽当たり年間借入金償還負担額(円)		6,952	

(2) 技術等の概要

主な飼養品種	採卵部門（イサブラウン他17種） 育雛部門（イサブラウン他18種）
成鶏舎の構造	開放鶏舎、無窓鶏舎、平飼い鶏舎、 立体鶏舎、高床式、低床式
生産部門以外の取り組み	鶏卵加工、直販、米・野菜の販売
自家配の実施	なし
協業・共同作業の実施	なし
施設・機器等共同利用の実施	なし
成鶏の更新方法	群ごとのオールイン・オールアウト
強制換羽の実施	実施していない
GPセンター活用の有無	あり
インテグレーション傘下の有無	傘下ではない

3 家畜排せつ物処理・利用方法と環境保全対策

1) 家畜排せつ物の処理方法

当養鶏場は、鶏舎が4地区に分散しており、穎田本場、庄司分場、小竹分場から排出される鶏糞については、庄司分場に収集し、庄司分場に設置している強制発酵処理施設（縦型コンポ）、攪拌発酵処理施設（ロータリー式攪拌機）により処理し、自作地の田に還元するとともに量販店を中心とした販売も行っている。

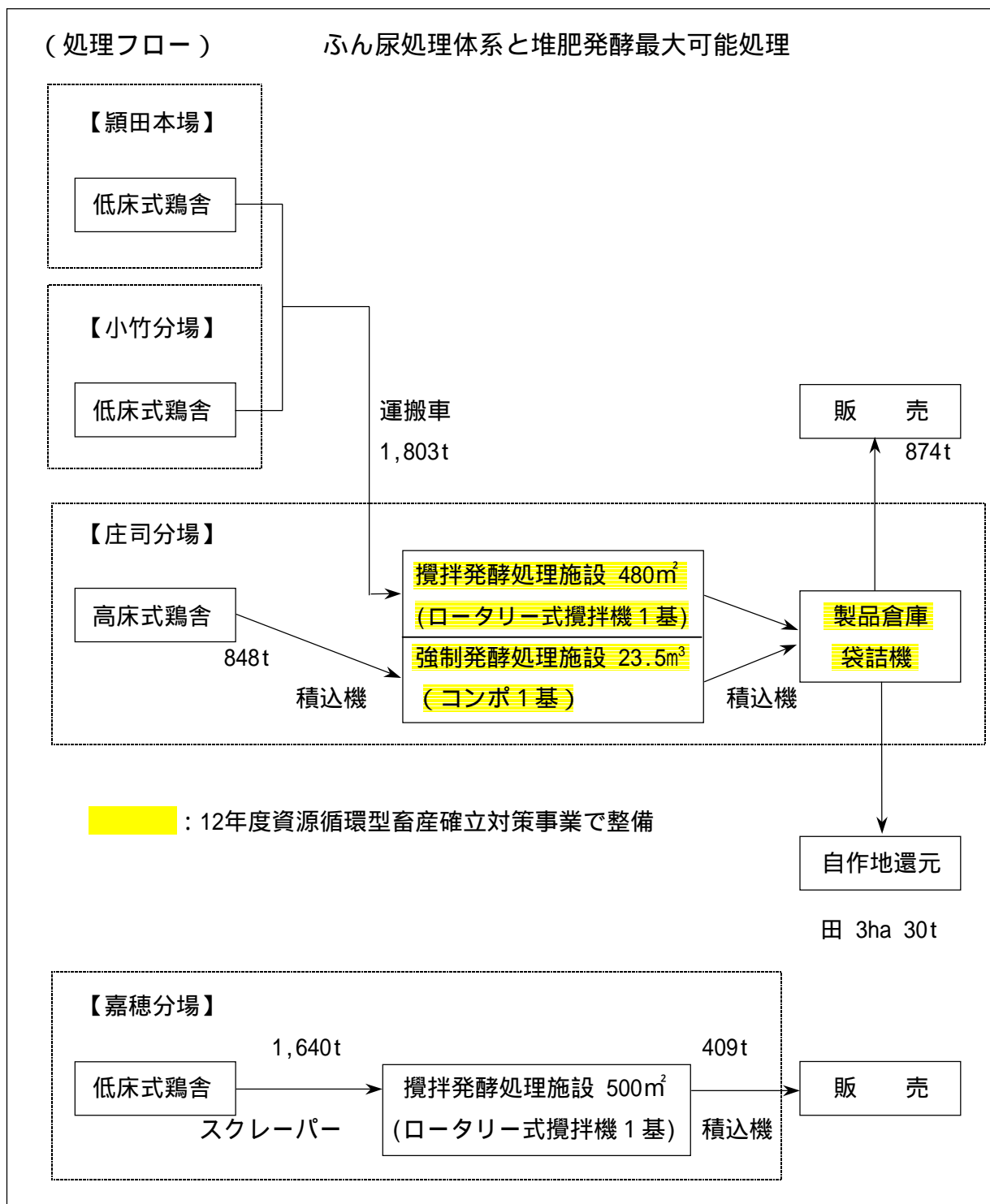
縦型コンポは、連続投入可能な密閉型の発酵処理施設であることから、悪臭の発生もなく地域環境等にも配慮した施設である。

また、嘉穂分場の鶏ふんは、当場内に設置している攪拌発酵処理施設（ロータリー式攪拌機）により適切に処理している。

なお、12年度に資源循環型畜産確立対策事業（国庫補助事業）に取り組み、強制発酵処理施設、製品倉庫、袋詰施設機械、攪拌機、積込機の整備を行うなど、地域環境への配慮と作業の効率化及び製品の品質向上に努めている。

12年度資源循環型畜産確立対策事業の概要

事業種目	事業量	千円	負担区分(千円)
強制発酵処理施設	1 式	28,665	国費 35,664
製品倉庫	1 棟	14,096	県費 11,888
攪拌機	1 式	6,316	その他 27,393
袋詰施設機械	"	21,525	
積込機	1 台	3,675	
設計管理費	1 式	668	
計		74,945	



2) 家畜排せつ物の利活用

内 容	割 合(%)	品質等(堆肥化に要する期間等)
販 売	98	縦型コンボ8日、ロータリー式攪拌機30日袋詰め販売
交 換		
無償譲渡		
自家利用	2	自作地の田に利用
その他		

3) 課題と評価

(1) 処理・利活用に関する評価

家畜排せつ物法の施行など、畜産環境保全に関する法的規制の強化や、住民意識の高まりの中で、12年度には、資源循環型畜産確立対策事業に取り組み施設整備を行うなど、処理施設の整備については、積極的な取り組みがなされている。

また、近隣の農家に堆肥を使ってもらい、生産された米・野菜を場内の直売所で販売するなど、地域との連携も大事にしており、地域や自然と調和した処理・利活用として、高く評価できるものである。

(2) 課 題

12年度整備した施設の本格稼働に伴い、安定稼働による処理の効率化、袋詰めによる付加価値販売の推進。

4) その他

直売所やアイスクリーム工房等も鶏舎と隣接していてG Pセンターや鶏の飼養状況が観察できるようになっており、顧客が立ち寄りやすく生産者の顔が見える環境づくりに心掛けている。

鶏舎の周囲には、四季折々の花を栽培し、環境美化にも積極的に取り組んでいる。

4 地域農業や地域社会との協調・融和についての活動内容

地域情報化セミナー、異業種の経営戦略グループ「楽友商店会」等にも積極的に参画し、インターネット立ち上げに協力・支援している。

「タマゴン工房」である直売所には、自社鶏ふんで栽培された農家の米や野菜等も販売するなど地域社会や農家と一体となった経営の展開を図っている。

福岡県養鶏協会の役員も歴任され、地域の養鶏農家グループ「十日会」にも参画し、仲間づくりや各種農業まつり等にも商品を出店、地域全体の農業の活性化に努められている。

5 後継者確保・人材育成等と経営の継続性に関する取り組み

当経営体は畜産を担う法人格の認定農業者であり、長女夫婦は、2人とも獣医師の免許を取得しており、長女は企画・広報担当、長女の夫は生産管理の責任者として、その獣医としての知識と技術を生かしながら生産現場の生産・衛生管

理責任を担っており、立派な後継者が育っている。

人材育成にも努力されており、海外留学生（オイスカ・ジャイカ）の研修生受け入れや養鶏農家の子弟の研修実践の場として開放し、地域全体の後継者育成にも尽力され、当場で研修を受けた養鶏農家の子弟も、指導を受けながら加工部門を始めるなど採卵＋加工タイプの養鶏農家も育ち始めている。

6 今後の目指す方向と課題

1) 当経営体の目指す方向

育雛部門を中心に発展した経営体であり、どの系列にも属さない自主独立の組織体で、今後も自主独立の精神をもって関係農家や関連企業と共生・共栄を企業理念として経営の充実を図る考えである。

施設・経営の展開方向としては、衛生管理面から観光農園的施設でなく、本来の育雛＋卵の販売を主体に商品の高級化・高付加価値化を図る。

特に、今後は、「たまご」や鶏肉のイメージを変える新たな商品を開発するため、今年度中に加工部門のうち一部委託加工している鶏肉加工も、当経営体内に施設を整備し処理する予定である。

さらに、消費者に安全で新鮮な商品を安心して消費していただくために、畜産を中心とした地域循環型農業を確立し、鶏ふん等の資源の有効活用を図りながら、地域全体として農業の活性化や農業の振興を図ることを考えている。

また、新JAS法の施行により、本格的な有機農産物の生産に着手すべく、水稲については認証の手続き中である。

大雛販売先の養鶏農家は、大半が直売を主体とした経営であることから、養鶏農家の先頭に立って、卵の食品としての地位や価値観のイメージアップに努め、当経営体の経営理念である自主独立を基本に「自分で作ったものは、自分で売る」ことをモットーに、養鶏農家や地域の方々と一緒になった農業や地域の振興を図る考えである。

2) 生産現場での情報発信の取り組み

顧客（消費者）とのコミュニケーションとお互いに顔の見える関係作りを、さらに強化する必要がある。

このため、毎日のように発行しているメルマガ「ピヨピヨ新聞」の対応を充実するため、メルマガのスタッフの養成を図り、常に消費者の皆さんに生産現場の新鮮な情報を流すことにしている。今後とも、消費者との絆を深めるため、生産現場で発生している卵情報などをお知らせするメル交換体制を整備し、消費者との距離を短くする考えである。

3) 経営戦略の向上対策

同業者である養鶏農家などの情報だけでなく、他業種との交流などにも積極的に参加し、経営改善を図る考えである。